高校魅力化コーディネーター　協力隊活動、ラストスパート


▲ 盛況だった東京での対面説明会（8月）

弓削高校魅力化コーディネーターの河村です。今年も、来年度のゆめしま寮入寮生募集が11月から始まり、生徒の全国募集活動は佳境を迎えています。8月に東京で開催された「地域みらい留学 東京対面説明会」では、2日間で過去最多となる45組が弓削高校ブースを訪れました。高校の魅力をしっかりとお伝えすることができ、“弓削高”への注目の高さをあらためて感じた2日間となりました。また、春先から毎週月・金曜日を中心に実施してきたオンライン学校説明会でも、多い日には10組以上の生徒・保護者にご参加いただきました。今年の入寮応募者は、例年より一段と多くなることを期待しています。

私の協力隊としての任期は、早いもので来年1月末まで残り3か月となりました。春に入学してくる生徒の皆さんと直接お会いすることは叶いませんが、募集活動やこれまでの業務を最後まで丁寧にやり遂げ、高校魅力化プロジェクトのバトンをしっかりとつないでいきたいと考えています。これまで仕事や生活面で支えてくださった町内の皆さまには、心より感謝申し上げます。協力隊に就任する前から、「地域の課題解決」と「収益の安定化」を両立する事業を創り、軌道に乗せ、社会に貢献することが私の夢でした。退任後は町内で起業準備を進めていく予定です。具体的な内容については、何らかの形で皆さまにお伝えできればと思います。一日でも早く計画を形にし、よりよい地域、よりよい町づくりのために精一杯励んでまいります。どうか温かく見守っていただけますと幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。


高校魅力化コーディネーター
河村　俊秀

サイクリング・観光振興　「私から見た上島町の魅力」



今回は、私が肌で感じている上島町の魅力を言語化しました。日々感じていることと照らし合わせながらご一読いただけますと幸いです。

まず、目で感じる魅力。「空の広さと明るさ」　上島町の主要道路は、島の外周であるため、景色の片側半分が空と海。空から降り注ぐ太陽光を海という鏡が反射することで、町内をより多くの光で照らしているため明るく感じられると思います。

次に、耳や肌から感じる魅力。「静けさと心地よさ」　上島町に来ると睡眠の質が良くなった。と感じます。それは夜の町の静けさ。あと直接耳に聞こえない地面から伝わってくる長周期の振動が、本州や四国に比べて少ないこと(新幹線の通過する際の振動や風力発電の翼が回転する時の振動)。島では海が揺れを吸収してくれることが、心地よさにつながっているのではないでしょうか。

そして、口から感じる魅力。「旬の恵み」　その時期に大地と太陽から最も多くのエネルギーを受け取ることができる野菜や果実、海鮮、つまり旬のものを頂くことが自然と暮らしの中にあり、島では食材の旬を感じやすいです。旬が来て、そしてピークアウトして次へとバトンタッチしていく。その時期にそれが魅力であると思います。

これらの感覚を通して味わえる町の魅力を、サイクリングや観光という切り口で、一人でも多くの方へお伝えできればと思っております。

最後に、11月8日は愛媛県サイクリングの日です。ベストシーズンのひとつである11月に、上島町の魅力を味わいながらサイクリングを楽しみましょう。

※第３回自転車ゆめしま会議は11月28日(土)の開催を予定しております。


サイクリング・観光振興
西島　孝

島おこし協力隊ミッション　ミニコラム41
「今年度も国際交流イベントを開催しました！」

ゆめしま未来塾の髙木です。早いもので、着任から1年が経ちました。上島町での生活にもすっかり慣れ、日々、美しい海に癒やされています。

9月、ゆめしま未来塾では、弓削高校との連携事業として、南アフリカから来町された2名の方をお迎えし、弓削高校のALTであるジョシュア先生のご協力の下、全2回の国際交流イベントを実施しました。今回のテーマは、第1回を「南アフリカを知ろう」、第2回を「日本文化を紹介しよう」とし、互いの文化に触れながら、英語で交流する機会をつくりました。

第1回では、南アフリカの文化や歴史、言葉、有名な食べ物、ゲストのお二人の出身地について紹介していただきました。生徒たちは興味深そうに話を聞き、南アフリカのお菓子を実際に味わうなど、普段の学校生活ではなかなかできない異文化体験を楽しみました。

後半にはUNOを行い、教えてもらった英語表現も使いながら交流しました。外国の方が話す英語を聞くことは、生徒たちにとって難しい部分もありましたが、緊張しながらも一生懸命英語で自分の思いを伝えようとする姿が見られました。

第2回は、ENGAWAで日本文化を紹介しました。駄菓子を一緒に食べたり、折り紙やオセロなどの日本の遊びを体験したりしながら交流を深めました。特に盛り上がったのが、チーム対抗で折り鶴の折り方を英語だけで説明するゲームです。適切な英単語が思い浮かばない場面でも、身振り手振りを交えながら、何とか相手に伝えようと試行錯誤していました。

今回のイベントを通して、英語は「正しく話すこと」よりも「相手に伝えようとする気持ち」が大切だと改めて感じました。座学だけでは得られない実践的な経験を通して、生徒たちが英語を使う楽しさを感じてくれたことをうれしく思います。

今後も、楽しみながら英語を学び、英語を通して人や地域、世界とつながることができる機会を継続してつくっていきたいと思います。


ゆめしま未来塾
髙木　大地





